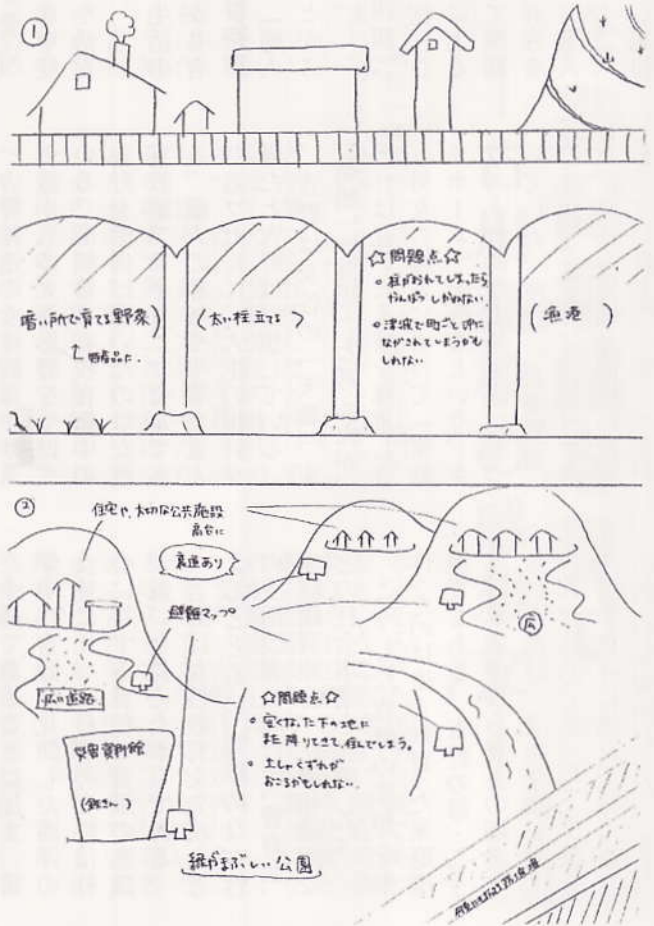


(2) 町のレイアウト図

①は人工的な高台の上に町をつくり、津波に備えます。

②は高台には、住宅や公共施設を建て、避難マップの案内板を立てる。避難場所の公園と災害資料館も作ります。

更に、発展学習として吉野と同様に復興に貢献した人物をレポートさせて、以下の作品に結実した。



震災復興を願う作文

志津川高等学校一年 首藤沙姫

私の住む南三陸町では、震災前の美しい風景を取り戻すための作業が日々行われています。

先日、関東大震災の経験から東日本大震災からの復興について考える事を目的に、当時活躍した宮城県出身者の吉野作造に関するお話を聴く機会がありました。この講演会を受けて復興に貢献した東北人が他にもいることを知った私は、特に興味をもった後藤

新平という人物を調べてみました。

後藤新平は震災発生の翌日に第二次山本内閣に入閣すると同時に、たった一人で帝都復興計画案を立てたことで有名です。その内容は「遷都しない」「復興費用に三十億円をあてる」など周りの人々を驚かせました。その後の議論を経て復興案は五億円ほどに縮小されましたが、後の震災に備えて多数の耐震構造の橋

や幹線道路を造り、水道の整備を行ったことで、東京を交通網の発達した美観都市にするという大きな成果をあげました。現在、東京には多くの公園がありますが、それらも震災時の避難場所になるようにと考えて造られたものがあります。彼の計画案は現代にも影響を与えています。

今回発生した東日本大震災の規模は世界的に見ても五本の指に入るほどのものでした。最大クラスの揺れと津波に、原発の爆発事故も併発したこともあり、被災した地域

はとても多く、その爪痕は未だにくっきり残っています。平成二十三年度の三次補正予算案で復興にあてる費用はおよそ九兆円とされ、できる限り速やかな計画の策定と実施がすすめられてはいますが、復興にはまだ長い時間がかかるでしょう。

南三陸町でも確かに復興計画は実施されていますが、その全容がわからないというのも事実です。「南三陸町の復興計画案を知っていますか」というアンケートが行われたこともありますが、多くの人が「いいえ」と答えていました。よく知らない計画に対して不信感を抱くこともあります。

後藤新平の計画案の中には「計画実行のために地主に断固たる態度をとる」というものがあります。何度も説明を行い、実際に成果をあげたため、当時の内閣への批判は少なかつたそうです。速やかな復興実現

のためには、民意をしっかりと理解して行動することのできる指導者が必要不可欠だといえるのではないのでしょうか。

しかしながら、私たち住民ひとり一人が復興に尽力することも忘れてはいけません。小さな瓦礫の撤去などできることは沢山あります。あと何年かかるのかはわかりませんが、私は南三陸町が完全に復興するその時まで一人の住民として努力し続けたいと思っています。



志津川高校前の被災写真